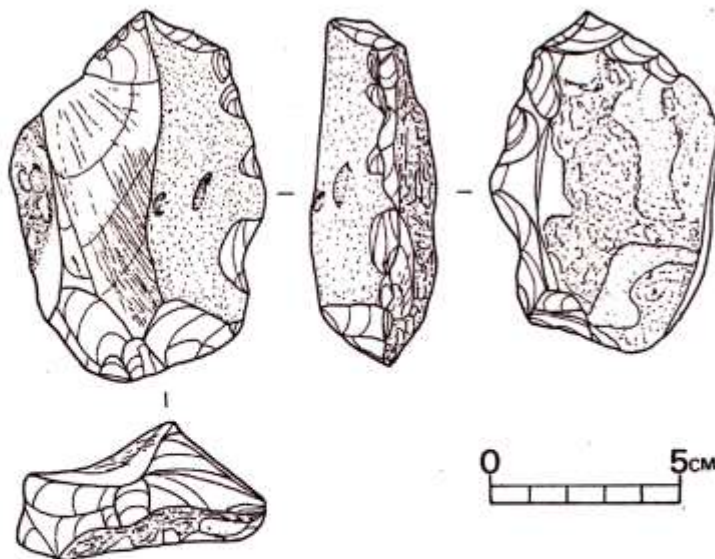


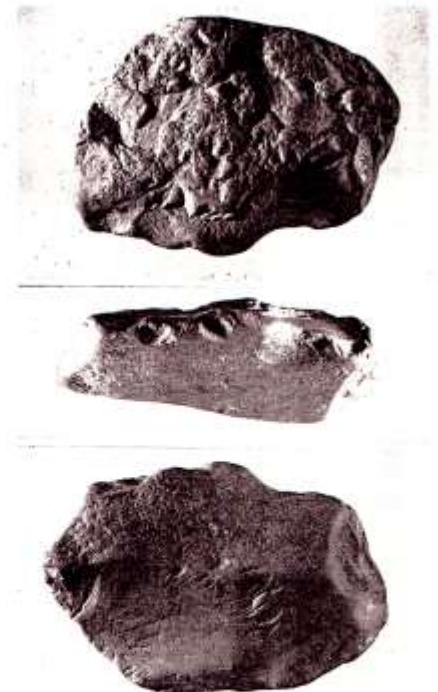
きゅうせつきじだい
広川町の旧石器時代

現在の日本列島には、約 40,000 年前～15,000 年前にあたる**後期旧石器時代**の遺跡が全国各地で発見されています。当時の日本列島に生きた人々は、各地域で食物を求め、広範囲を移動しながら生活していたことでしょう。原始の自然の中で、動物の狩猟や解体に必要な道具として石（サヌカイト・黒曜石など）を加工した**石器**を使用し、その製作技術も発達していきました。

広川町では、『^{ひろかわあかさかいせき}広川赤坂遺跡』で片刃礫器（^{かたばれつき}チョッパー）が1点出土しています。この石器は昭和44（1969）年九州縦貫自動車道建設予定地の丘陵部の事前調査で出土しました。長さ10cm、幅約7cm、厚さ約3cmのこぶし大の自然石を加工した石器です。時期的には、後期旧石器時代又は縄文時代早期（約15,000年前）の遺物^{いぶつ}と報告されています。この礫器は遺構からの出土ではありませんので、今後町内でも後期旧石器時代を浮き彫りにするような遺跡の調査に期待がかけられます。



第37図 広川赤坂遺跡出土石器実測図（縮尺1/4）



挿図は『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』福岡県教育委員会 1970 より